

平成 28 年度 第 2 回磐田市総合教育会議 会議録

日 時 平成 29 年 2 月 22 日 (水) 午後 4 時 00 分 ~ 午後 5 時 00 分

会 場 磐田市役所 西庁舎 3 階 特別会議室

出席者 市長、教育長、杉本憲司委員、青島美子委員、田中さゆり委員、秋元富敏委員
(出席者 6 名)

事務局 企画部長、教育部長、秘書政策課長、教育総務課長
秘書政策課政策・行革推進グループ長、同課同グループ主査、担当
教育総務課児童・総務グループ長、同課同グループ指導主事

傍聴者 0 名

[会議次第]

1 開 会

2 市長あいさつ

3 協議事項

(1) 平成 28 年度の振り返りとこれからの磐田市の教育について

(2) その他

4 閉 会

[協議の主な内容]

(1) 平成 28 年度の振り返りとこれからの磐田市の教育について

市長

総合教育会議も 2 年目となったが、今年度を振り返っての感想やご意見がありましたら、ご発言願います。

委員

コミュニティスクールが本格稼働した年であり、竜洋で行われた大交流会に参加させていただいた。当日は、小中学生 1,500 名に加え、ボランティアや地域の方々が多く参加して下さり、子ども達のいきいきとした姿を見ることができ、とてもいい交流の機会であったと感じている。

今日の会議に出席するにあたって、自宅から会場に向かう途中、小学生の下校時刻と重なったこともあり、多くの地元ボランティアの皆さんが、子どもの見守り活動されている姿を何度もお見かけした。本当に磐田は良いまちだと感じた。

委員

ここ数年の流れの中で教育行政は大きく動いていると感じている。今後 30 年、40 年を見越した新たな学校づくりの協議会がスタートした。その中で意見として出された案について、教育委員の中でも熱心な議論をしてきた。

文科省や近隣市町村で開催される教育委員の「研究会/研修会」に参加し、教育行政の方向性も確認してきたが、県内の市町の参加が少なかったことに少し驚いたのも印象として残っている。

委員

外に出る機会や他の市町の方と話す機会があったが、その度に「磐田の教育行政は進んでいる」と実感している。小中一貫教育にしてもコミュニティスクールにしても、他の市町と比較すると先んじて積極的に進めていると感じている。スポーツ部活の取組みについても、大変興味を持って聞かれることが多かった。全国どこでも、学校単位で部活を行っていくことが難しくなっているのではと感じた。一方で、こうした市において委員として活動できることは、やりがいもあり、大変うれしく思っている。

委員

本年は、教育委員 2 年目となって、毎回とてもいい勉強をさせていただいていると思っている。学府一体校の見学に大槌町に伺ったが、とてもいい参考になったと感じている。磐田の向かう方向が見えたような気がしている。

反省として、現役の P T A との交流をもう少しできたら良かったと思っている。また、学校協議会にも参加させていただき、現場の声を聞くことができ、現場に出ることで気づかされることも多かったので、実際に見たり聞いたりしていくことが重要であると再認識をした。

教育長

本年度を振り返っての所感が大きく 3 点ほど、あります。

1 点目は、大きな事故・事件が本年度は無かったことは、大変大きかったと感じている。常にそれに対する不安を抱え、子ども達を見守っていくこと

は重要であると同時に、毎日続けていくことが大切であると改めて感じている。

2点目は、関係する皆様のお蔭で事業が進み、その都度、ご協力をいただいたことに、大変感謝している。特に、ながふじ学府の協議会の皆様には、熱心なご議論をいただき、いい方向に進んできていると感じている。

3点目は、これまで新たな学校づくりを進めているが、時代は今、ひとつのターニングポイントを迎えていると感じている。今、作ろうとしている学校が、必ずきつと2100年までつながっていくような感じがしている。このため、それに値するような学校を作っていく必要があると思っている。

反省点もいろいろあるが、今後も状況の把握に努め、しっかりと進めていきたいと考えている。

市長

総合教育会議を設置する前から、教育委員会とは、連携を密にして、課題に取り組んできた。その結果が学府一体校の整備であり、スポーツ部活などにもつながっているのだと思っている。

委員の意見にもあったが、現場と話す機会を持つことで、新たに、前に進むことができる「きっかけ」にもなるのではと感じている。

委員

学校運営協議会に出席させていただいているが、そこに出席している地域のみなさんの意見を聞いていると、それぞれの立場から、本当に子ども達の事を考えてくれていると感じている。ここ2～3年で随分と変化してきているとも思っている。

委員

子どもの貧困が話題になっているが、親の貧困がそのまま子供につながっていると言われているが、見た目には分からない部分も多いようである。

優秀な子ども達に、進学の手を助けるため、磐田市独自の奨学金制度があってもいいのではないかと考えている。Uターンを条件に給付型の奨学金制度を設けて、意欲ある学生を救えたらと思っている。また、このような取り組みは、移住・定住にもつながるのではと考えている。

市長

国も給付型奨学金をスタートさせるというような報道もされているが、本市においては、29年度からUターン促進のため奨学金補助制度を創設し、実施していきたいと考えている。

委員

教育委員会でも色々な活動をしているが、例えば、図書館での講演会や文化財の発掘・展示など、それらの情報を広報やホームページで告知している。しかし、アンテナが高い人ばかりではないため、参加につながらないケースが多い。PRをいかにしていくか非常に重要であると感じている。

委員

今後、教育行政の取り組みは家庭・地域・学校の連携の上に組み上げられて行く。そう言う意味で「市総合教育会議」は、貴重な機会であり重要な意

見調整の場と考える。事前に、課題・問題点を整理し、テーマを絞った「話し合い」をしたい。

市長

総合教育会議は、教育委員との貴重な意見交換の場であると考えているので、今後も、忌憚のないご意見をいただき、有意義な会議としていきたい。